



戸塚小学校だより

学校所在地 〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町132

TEL 881-0049・6461

Eメールアドレス y3totuka@edu.city.yokohama.jp

FAX 881-9804

「大丈夫？」

校長 鈴木 陽一

「両手がふさがっているけれど、大丈夫？」

と、先日の土曜参観の朝、金次郎門前の横断歩道のところで横断指導をしていた時に、低学年の子から声をかけられました。その日は朝から雨が降っていたので、私は、右手に傘を持ち、左手に横断旗をもっていました。その姿を見て、心配して声をかけてくれたのでしょうか。きっとご家庭で、「両手に荷物を持っていると危ないから気を付けるんだよ。」と常日頃声をかけられているので、私にも声をかけてくれたのだと思います。

それから、しばらくたった時に

「寒いけど大丈夫？」

と、別の子から、声をかけられました。雨は冷たく、私の背広も濡れていました。寒い中立っている私を心配してくれたのでしょうか。ほんの一言ですが、気持ちが温かくなりました。

以前、警察の方から、交通安全指導についての話を伺う機会があったときに、「朝、家を出る時に、お子さんに、一言、気を付けて行ってらっしゃい。と声をかけてあげてください。」という話を伺いました。その一言で、子どもたちは少し周りに対して意識がいきます。「保護者の方の言葉は、子どもたちは聞いていないように聞いていますよ。」という内容だったかと思います。

常日頃かける一言は、交通安全に限らず大切であると思います。私も、子どものころから、「人にやさしくするんだよ。」「人の話はきちんと聞くんだよ。」などなど、言われ続けた覚えがあります。その時は、何気なく聞いていたり、時には何度もうるさいと感じていたりしましたが、自分自身が大人になったときには、同じようなことを自分の子供たちに言っていたように思います。何かしら、心の底に残っているのでしょうか。私たち大人の思いがこもっていると子供へのメッセージとして伝わる時があるのではないのでしょうか。

つい先日も、雨の中横断歩道に立っていたら、「両手がふさがっていて大丈夫？」とまた声をかけてくれました。その子を見ると片手に手提げをもち、もう一方の手に傘をさしていたので、「あなたも、両手がふさがっているよ。大丈夫？気を付けてね。」という「大丈夫だよ。」と返事が返ってきたので、「わたしも大丈夫だよ。私のことを、心配してくれてありがとう。」というやり取りをしました。

保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、これからも、子どもたちの健やかな成長のために、本校の教育活動に対してのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。